

高松琴平電気鉄道

高松琴平電気鉄道（通称ことでん）の路線は、琴平線（高松築港駅～琴電琴平駅間 32.9km）、長尾線（瓦町駅～長尾駅間 14.6km）、志度線（瓦町駅～琴電志度駅 12.5km）から成っています。高松琴平電気鉄道は、昭和 18 年 11 月に琴平電鉄、高松電気軌道、讃岐電鉄の 3 社が統合して設立されました。会社と路線の成り立ちを見ることにします。

最初に設立されたのは高松電気軌道で、明治 42 年 10 月でした。明治 45 年 4 月に出晴（現在の瓦町駅付近）～長尾間 14.5km が開業しました。当時馬車で 2 時間かかっていた高松から長尾の間を電車は 56 分で運行したので、電車の開通は沿線住民に歓迎されました。大正元年 10 月には貨物輸送も開始され、特に長尾、平木などの商店街は活気づきました。終点長尾駅の位置は、当初現在の長尾駅から東約 600m の志度街道との交差点に設置する計画でしたが、地元の住民間で駅をめぐる争奪戦が起こり、結局計画が変更されて現位置に設置されました。

次に讃岐電鉄の前身の東讃電気軌道が明治 43 年 5 月に設立され、明治 44 年 11 月に今橋～志度間 12.1km を開業し、続いて大正 2 年 10 月に今橋～出晴間を、大正 4 年 4 月には出晴～公園前間を開業しました。東讃電気軌道は大正 5 年 12 月に四国水力電気と合併し、四国水力電気の電車部門となり、大正 6 年 5 月に公園前～高松駅間の路面電車を開業し、同年 7 月には高松駅から築港まで延伸しました。この公園前～築港間 2.29km の市内線の開通により電車利用者が急速に増えました。しかし、戦時下に電力統制が強化され、四国水力電気は解散することになり、鉄軌道事業は昭和 17 年 4 月に讃岐電鉄が設立されて引き継ぐことになりました。

琴平電鉄は大正 13 年 7 月に設立されました。当時国鉄線が高松から琴平駅までの約 45km を 2 時間ほどで結んでいたのに対して、琴平電鉄は高松と琴平の間をショートカットする鉄道を建設し、高松～琴平間約 31km を 1 時間で電車運転する計画を立てました。そのため、電車の速度、震動等を考慮して国鉄のレール幅 1067 ミリに対して、琴平電鉄は軌間 1435 ミリを採用しました。大正 15 年 12 月に栗林公園～滝宮間 17.8km を開業し、昭和 2 年 3 月に滝宮～琴平間 12.3km を、同年 4 月には栗林公園～高松（現在の瓦町駅）間 1.2km を開業しました。当初は栗林公園、鷺田、円座、琴平という琴平街道沿いのルートが計画されていましたが、仏生山地区の人々の誘致運動が実って仏生山経由のルートになりました。

戦時下に琴平電鉄、高松電気軌道、讃岐電鉄の 3 社は、交通統制の国策により企業統合を要請され、昭和 18 年 11 月に高松琴平電気鉄道に統合されました。これに伴い、長尾線の軌間を他の 2 路線と同様に 1435 ミリに改良するとともに、出晴駅を瓦町駅に統合して瓦町駅を 3 路線の総合停留所としました。その後、昭和 20 年 7 月の高松空襲により市内線が運行不能となったため、市内線に代わり瓦町～築港間 1.7km の線路延長工事が行われ、昭和 23 年 12 月に築港駅が仮設駅舎で開業して、ほぼ現在の 3 路線の姿が形成されました。

<参考文献：高松琴平電気鉄道編「60 年のあゆみ」1970 年、高松琴平電気鉄道社史編纂室編「80 年のあゆみ」1989 年、香川県編「香川県史第六巻通史編近代Ⅱ」1988 年など>

